輪中地域のコミュニティ形成にみる水防意識の変遷に関する研究

岐阜大学　学生員　○中嶋　伸恵
岐阜大学　正会員　　田中　尚人
岐阜大学　正会員　　秋山　孝正

1. はじめに

近年，地域の風土性を無視した画一的なインフラストラクチャー整備やまちづくりが問題となっている．この問題を解決するには，地域の自然地形や人々の風習など地域の個性に根ざした空間整備が必要である．このような個性の風土性は，地域のコミュニティの共同意識や活動によって支えられてきたと言える．

濃尾平野を流れる木曽三川下流では，古来より頻発する洪水の対策として「輪中」という特色ある地形を形成していた．そして，治水事業において様々な技術や知恵が投入されてきた．このような輪中地域において，インフラストラクチャー整備が輪中地域のコミュニティ形成に与えた影響は大きい．

本研究では岐阜県下の輪中地域である，輪之内町と隣接地域（**図-1**）を研究対象地とし，地域の風土を支えてきた水防意識の変遷を記述することを目的とした．参考文献 [1]や地図資料の分析及びヒアリング調査より，水防意識が表出しているコミュニティ活動やコミュニティ自体の形成過程について考察を行った．

2. 輪中地域のインフラストラクチャー整備

輪中地域におけるインフラストラクチャー整備とそれに伴って変遷してきたコミュニティについて参考文献 [2] [3] や地図資料から年表として整理した．（**表-1**）

輪中地域では，古来より水害が絶えなかったため，治水事業として様々な対策が採られてきた．中でも堤防築造等の河川改修が盛んに行われてきたことが分かった．

河川改修が収束する一方で，高度経済成長期に伴うモータリゼーションによって道路が盛んに敷設され，輪中地域への架橋も増加した．

また，堤防築造や道路敷設等のインフラストラクチャー整備が行われる中，輪中地域における自治体や水防活

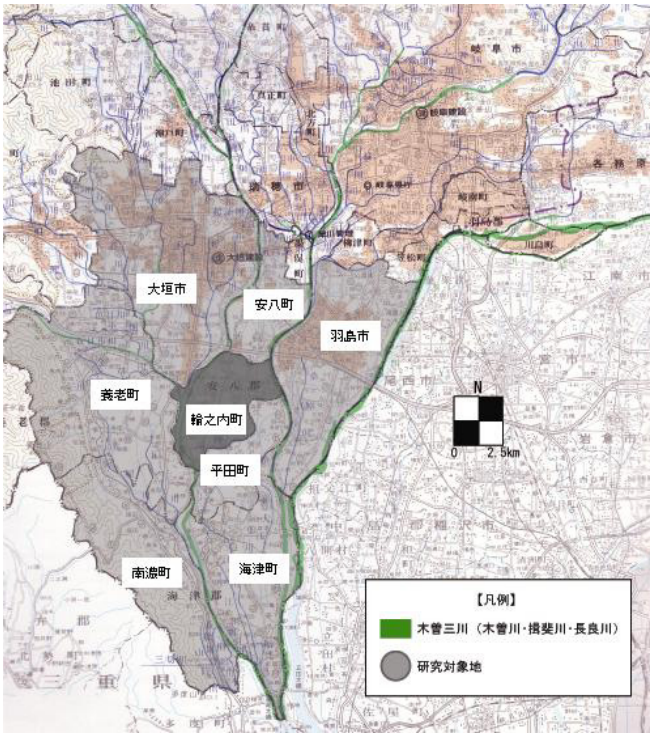
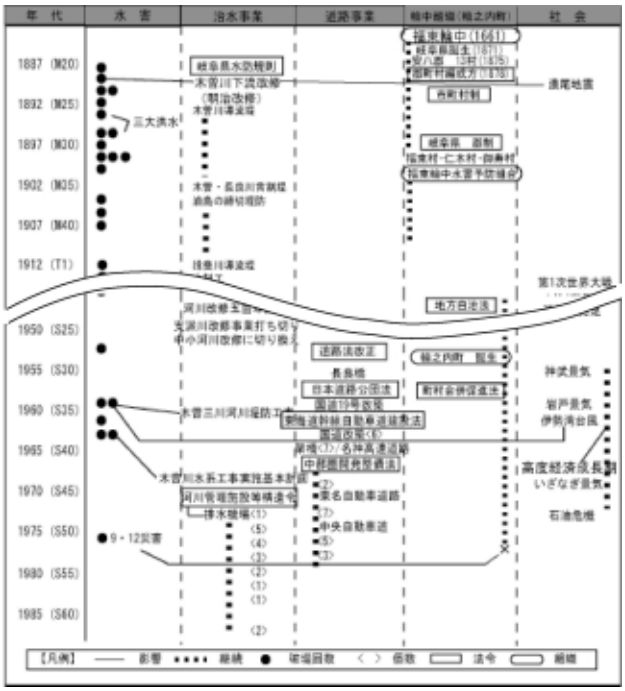


図-1　研究対象地（『岐阜県河川図』を基に筆者加筆）

表-1　輪中地域におけるインフラストラクチャー整備の変遷
（参考文献 [2] [3] を基に筆者作成）



Keywords:　インフラストラクチャー，水防意識，コミュニティ，輪中，風土
岐阜大学大学院工学研究科土木工学専攻（〒501 - 1193　岐阜県柳戸 1 - 1　TEL058 - 293 - 2443　FAX058 - 230 - 1528）

動組織は，大水害や治水事業の影響を強く受けて変遷してきたことが明らかになった．

3. コミュニティ変遷における水防意識に関する分析

研究対象地である輪中地域周辺では，治水事業の発達による水害への危険意識の低下と，道路敷設と架橋による輪中地域への人口流入などに伴う水防意識の変化によってコミュニティの形態が変遷してきた．このコミュニティの変遷に沿って，治水技術，水防活動，風習も変化したと考えられる．従って，輪中地域で行われてきた水防活動等に着目したコミュニティの変遷を考察することにより水防意識の変化を記述することができる．

(1) 水防活動の概要

水防活動とは，一般的には水防法に基づき市町村で組織される水防団によって成される活動であり，地域ごとに特徴的な働きが存在する．（**表-2**）そこで，輪之内町を中心とする輪中地域において，水防活動の実態を調査した．調査項目としては以下に示す通りである．

(a) 水防団の組織
(b) 水防活動エリア
(c) 水防工法
(d) 水防倉庫・河川構造物等の管理
(e) 風習

以上の調査項目から，これらの規範となっている水防意識に関する分析を行った．

表-2　輪之内町における水防活動

内容
① 水防管理団体に所属する水防団員によって水防活動が成されている．
② 輪之内町が1つの水防管理団体になっている．
③ 県庁で定める重要水防箇所の警戒の他に,切割りの締切りも水防活動の一環である．
④ 切割り周辺に設置された水防倉庫の管理や整備を行う．
⑤ 9･12災害の教訓として,水防訓練において切割りを締切る練習等を定期的に行う．
⑥ 9･12災害後の水防活動への意識が変わった．

(2) 水防意識変化の時系列的分析

輪之内町では，江戸時代初期以前から福束（ふくつか）輪中を形成してきたが，治水技術の発達に伴って水害の危険性が低下した．その結果，輪中の必要性が薄れ，輪中内で行われていた水防活動が低迷し，輪中の解体が起こった．（**図-2** の左図に示した地域）そして，輪之内町，安八町，墨俣町が合同で新たな水防組織「揖斐川以東水害予防組合」の結成に至った．（**図-2** の左図に示した広域連携）しかし，1976 年（昭和 51）の 9･12 水害において，輪中の復元により輪之内町のみが浸水を免れたことから，３町による水防組織が解体された．（図-2 の右図に示す水防組合ごとに解体）ここから，輪中に対する意識の変遷が明らかになった．

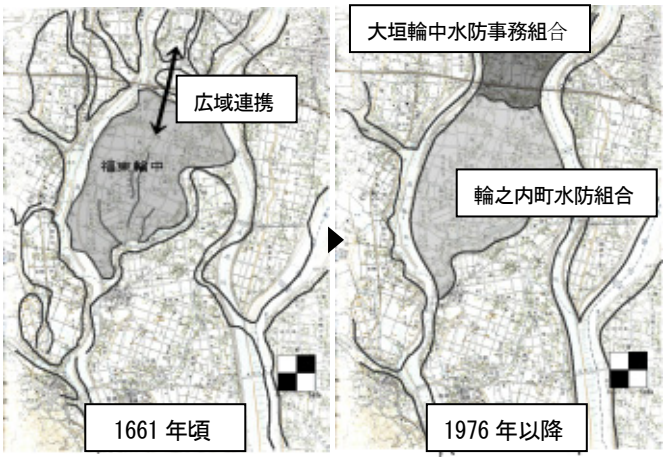


図-2　輪之内町における水防組織の変遷（1/25000 地形図を基に筆者加筆）

(3) 水防意識の地域間比較

9･12 災害時の浸水被害地である安八町と非浸水被害地である輪之内町の水屋・基壇を比較した．その結果，非浸水被害地では昔ながらの古い水屋・基壇（**図-3**）が多いのに対し，浸水被害地では新しい水屋・基壇が存在したことが分かった．これは，非浸水被害地では水防意識が低下し，水屋・基壇の必要性が薄れたと言える．これに対し，浸水被害地では現在も水屋・基壇が必要であると言える．このように，浸水被害の有無によって水防意識に差異が生じたことが明らかになった．

図-3　基壇

4. おわりに

輪中地域におけるコミュニティの形成には，インフラストラクチャー整備が強く影響を及ぼし，水防意識とコミュニティは相互に影響を及ぼし合い，密接に関係している．輪中地域で培われてきた水防意識は，コミュニティの変遷過程を分析することによって時間的な変化，また，地域ごとの違いから，変化に地域差が存在することが明らかとなった．

参考文献

1)　伊藤安男：変容する輪中，古今書院, 1996. 8
2)　木曽三川治水史百年のあゆみ編集委員会：木曽三川治水史年のあゆみ, 建設省中部地方整備局, pp. 1098-1155, 1995. 8
3)　岐阜県：岐阜県町村合併史, 臨川書店, 1961. 11